



2020.6.20 第125号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信



兵藤辰也 牧師

神に背負っていただいて

東海教区・中遠教会牧師 兵藤 辰也

「同じように、わたしはあなたたちの老いる日まで 白髪になるまで、背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す。」私が以前遣わされていました伝道所の開設5周年にあたって記念礼拝をいたしました。その際お招きした説教者からお聞きした御言葉がイザヤ書46章4節の言葉です。5年間の歩みを重ねた伝道所はそれまで重ねてきた働きの祈りとが少しずつつ実を結びつ

つあった喜びと同時に課題も見えつつあるような状況でした。このイザヤの言葉を与えられて「伝道所の歩みはただただ、主なる神様の約束の真実さによって支えられ、導かれてゆくものである」このような思いが与えられたことをその後の伝道者としての働きを許される中で何度も思い起こしています。

「白髪」と言えばこれまで私が伝道者としての務めを今日までまがりなりにも続けてこられた理由には上記の事に加えてさらに先輩である教師の方たちとの交わりに加えられてきたことがあります。つまり、神様によって召されて伝道者として生きる者は決して一人きりで神様の御用を果たす

すものではなく、自分よりも先にその道に歩んでいる人々との交わりの中である意味で育てられていくものであるということが出来ます。そして私自身は育てられてきたと思っています。

神学校を卒業して右も左も分からなかった私、しかも伝道所のスタートを委ねられて精一杯働きながらも何かと心配や不安も抱えていたところで地区・分区・教区で出会う多くの教師の方々、とりわけやはり地区・分区という距離的に近いところにいた先生方が何くれとなく気にかけてくださいました。公の場での学びの時の様々な議論も私にとっては有益でした。またそうしたところを離れてもう少

し私的な交わりを持つことも許された先生方も数名おられ、文字通り「公私にわたって」相談に乗っていただき、助けられたことは一度ならずありました。時には「どうしてこういうことを言われるのだろう」と率直に言えば納得がいかないこともありましたが、時間が経つ中で以前に言われたことを思い起こして「ああ、あの時、あの先生はこういうことを私に言いたくてあのようなおつしやつたのだな」と腑に落ちることもあります。神学校入学から数えてみると本当に多くの先輩教師の方々と交わりが与えられ、キリストの教会に仕える伝道者として大切なものを指し示され、それらの中から自分なりに受け止めることができたものが現在の私の働きにおいて生かされていることに今回の通信原稿作成の中で改めて気づかされました。

このようにして当時同労者として教会での働きに携って

来られた私がお世話になった教師の方々の多くが今や「隠退教師」となりつつある中で私は2年前から教団年金局理事の務めを与えられています。理事会で委員の方たちの様々な発言を聞いていると「これまで主イエスの教会のために働いてくださった先生方をお支えしたい」という思いが常に根底にあることを言葉の端々に感じます。そうした発言を聞きながら、神様の約束を信じて、神様からの務めにその生涯をかけられた教師の方たちに対しては当然払われるべき敬意として隠退教師の生活が支えられるべきものであると思わされます。と同時にこの事に最近まで気づいていなかったことは申し訳ないことだとも思っています。

文章の最後になりましたが、隠退教師の生活を支えるために謝恩日献金と「隠退教師を支える運動」100円献金はなくてはならないものです。ここに貴い献げ物をしてくだ

さっている皆様に感謝をいたします。皆様の志と献げ物は年金局理事会で交わされている発言とそこに込められている思いと重なるものです。主なる神様が「わたしはあなたたちの老いる日まで、白髪になるまで、背負って行こう。」と約束してくださったその御業に参加するものです。このことを覚えて、これからも、このふたつの運動を祈りと共にお支えいただけますと幸いです。

(ひょうどう たつや)



「隠退教師を支える運動・100円献金」

主の導きに感謝

京都教区推進委員 奥野力ネコ

「隠退教師を支える運動」は今年、42年を迎えます。主の御導きと全国の教会・伝道所の皆様のご参加ご協力に感謝申し上げます。2019年度は953教会・伝道所がご参加くださり、70,225,672円をお捧げいただきました。

私は教団年金局の理事としても働かせていただいております。毎年度、教区定期総会における年金局挨拶のおり、「隠退教師を支える運動」についても報告しております。今年は新型コロナウイルス感



奥野力ネコさん

染症予防のため、教区定期総会が書面開催となり、教会・伝道所が一堂に会した場で感謝とお願いを申し上げることができなくなりました。書面でご報告をさせていただきました。と思っています。

教団年金は1998年から年金掛金額より年金給付額が上回っています。その差額を「謝恩日献金」と「100円献金」が補っています。私たちの運動が神様の御用のため、年金制度を維持継続するお役に立っていることは大変喜ばしいことであります。

1973年、北海道の一教会から始まったこの運動は1976年に北海教区の運動となり、1978年11月開催の教団総会で教団の運動として可決され、全国的に推進され今日に至っていますが、こ

の運動の歴史は個人的にも感慨深い思いがいたします。私の所属する教会は1975年、「信徒の友」の記事がきっかけで、同年10月から献金をしています。私が担当に任じられ、翌年4月に第1回目の送金をしました。教団の運動になる前の当時の送り先は日本基督教団財務部年金係でした。

この運動の初期、1978年第20回教団総会で可決された当時の状況が偲ばれます。抛出制の教師退職年金制度は1964年に発足しておりましたが、それ以前に退職された隠退教師とご遺族は対象にならず「謝恩金」を受けておられましたが、大変少額であったことを思いますと、当時の隠退教師の方々の経済状態が推測できます。当時の「謝恩金」の金額は単身者で年額28万円、有配偶者で37万円、ご遺族は16万円という不備なものであったと聞いており、公的年金を加算しても十分なものではなかったと思います。教

団の運動となった翌年、謝恩一時金として1万円を差し上げられるようになりましたと、川名恵三業務室長からお知らせがあり、すぐに教会の皆様にお知らせしたことを思い出します。その後、年毎に増額され、現在は7万円となり、「謝恩金」の原資を今日まで支出しています。当初の目的は謝恩金制度を支えることにありましたが、現在では教師退職年金制度を維持し守る使命を負っております。老後の生活にとって、年金は大きな支えであり、隠退教師の方々だけでなく、現役の教師の方々にとっても年金制度を維持し、老後の不安を払拭できるよう考えることは必要なことであると思います。そのためにも、全国の皆様と共に「隠退教師を支える運動」を継続していくことが重要です。

主の導きをお祈りいたしております。

(おくのかねこ／膳所教会)

業 務 室 よ り

— 年金を受けている方へ —

年金送付のお知らせ

7月の定例送金のご案内をします。

送金内容

①謝恩金受給者

2020年度第2期分給付

(2020年7・8・9月分)

②退職年金受給者

2020年度第1期分給付

(2020年4・5・6月分)

送 金 日 2020年7月10日(金)

期日に、ご指定の金融機関に入金されていない場合は、ご連絡ください。

次回送金 2020年10月9日(金)

連絡先・年金振込先の変更は、できる限り早めに、書状、Fax、e-mailの何れかで、年金局までお知らせください。

☆ 2019年度年金局事業・決算報告書がまとまりました。以下、概要を感謝をもってご報告いたします。2019年度は725名の隠退教師・ご遺族(年度末現在)に総額4億5,141万円を年金を支給いたしました。一方、掛金収入は3億2,986万円でその差1億2,155万円は「謝恩日献金」「隠退教師を支える運動・100円献金」、資産運用益等で補われています。「謝恩日献金」の総額は4,090万円で996教会から献げられました。また「隠退教師を支える運動・100円献金」は7,022万円で953教会から献げられました。(詳細は教団新報4924・25号の中ほどの年金特集71号をご覧ください。)全国の教会・伝道所が祈りと共に献げてくださったこれらの献金は教団教師退職年金制度の健全な継続のための大切な財源です。資産運用益は変化の激しい運用環境の中、目標の101%、4,685万円を計上すること

ができました。「支える運動」からの多額の繰入金、教区協力金、教団からの繰入金、個人や各団体からの特別献金などのおかげで、2019年度の収支差額2,898万円は積立金に繰り入れられ、退職年金積立金は43億1,415万円となりました。詳細は、秋に発行される教団新報・年金特集72号に掲載いたします。)

☆この春隠退され、教団年金受給者となられた方は現時点で14名、再隠退された方は2名です。

☆前号をお届けした後に新型コロナウイルスが猛威を振るい、緊急事態宣言が発令されました。多くの教会が教職や一部の方での礼拝堂での礼拝を捧げ、教会員はインターネットでの画像や音声録音の配信、説教要約の配布などによって家庭での礼拝を守る日々を過ごしています。少しずつ感染者の減退は見られますが、完全終息するには当分先のようにです。教区・教会などの総会も中止や延期、スタイルを変えての実施、年金局・支える運動事務局でも、委員会や理事会など形を変えての開催、職員も在宅勤務を交えながら業務を続けております。みなさまにもいろいろな制約やご苦勞、ご不安などを抱えていらっしゃることもお察しいたします。どうぞ主がいつも共にいてくださることを信じて、この試練を共に乗り越えてまいりましょう。

☆職員の福島聡子が事情により、3月末で退職いたしました。このような状況下で新しい職員の補充もままなりません、業務に支障を来さないよう努めてまいります。(村山めぐみ)

日本基督教団 年金局

「隠退教師を支える運動」推進委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18

年金局 Tel: 03 (3202) 2080

Fax: 03 (3202) 2081

e-mail: nenkin@clock.ocn.ne.jp

支える運動 Tel: 03 (3202) 2080 (Fax 兼用)

e-mail: sasae@flute.ocn.ne.jp